

## 令和2年度7月全校朝礼（高校）

さて、学校が再開され2か月が経とうとしています。「新しい生活様式」とか「with コロナ」とか言われていますが、今も新型コロナウイルスの感染拡大は止まることなく、君たちも引き続き、不安と我慢の生活を送らざるを得ない状況になっています。先生方も、君たちが帰った後、教室などの消毒に多くの時間を費やし、普段と異なる状況下、授業を始め、様々な指導をどのようにしていったら良いかに頭を悩ます毎日です。しかし、そこには君たち一人ひとりが安心して、楽しい学校生活を送ってほしいという先生方の「思い」が込められているのです。そのことを心のどこかに入れておいて下さい。一緒に頑張っていきましょう。

ところで、世界中の皆がコロナと闘っているわけですが、まさにコロナと最前線で闘う医療に従事する人たちの献身的な働きには頭が下がる思いであり、さらには、その彼らを世界中の多くの人々が様々な形で応援する映像は、とても心打たれるものがありました。

そして、マスコミによく登場する知事や市長などの首長たちもある意味、闘っている代表と言えるでしょう。彼らは、その対応に苦慮しながら、人々の生命や生活、人生を大きく左右する様々な大きな決断を下しています。

ところで、その首長ですが、大阪府の吉村洋文（ひろふみ）知事が典型的な例として、いつの間に日本は、このような若い人たちが活躍するようになったのだろうかと思ったのは私だけではないはずです。その中で、私が特に気になった首長がいました。

全国初の緊急事態宣言を発出し、2月末から3週間、外出自粛を求め、学校を休校にし、1か月ぶりに道内の感染者がゼロになり、そのことが「北海道モデル」と呼ばれた、鈴木直道（なおみち）北海道知事です。彼は39歳、埼玉県春日部市生まれです。彼は高校卒業後、東京都職員になります。実は経済的な理由から一度大学進学を断念しますが、都職員として勤務しながら、大学に通い、地方自治を専攻します。ある時、財政破綻の影響を都職員に知ってもらうためということで、東京都が彼を北海道夕張市の市民課に送り込みました。夕張市は当時、炭鉱の閉山などで財政再建団体になっていたのです。そこで彼の運命が大きく変わります。様々な地域活性化の会に参加し、自ら財政再生計画に市民の声を反映させるために夕張再生市民アンケート実行委員会を設立。訪れた副大臣のバスに乗り込み延々と現状を説明、総務省で報告書を提出するなど、まさしく市の再生のために全力を尽くします。そうしたことが認められ、市長選挙に出るよう要請され、30歳1か月で市長に就任。「地域活性化モデルケース」に選定されるまでになりました。そして、昨年、38歳で北海道知事に就任するのです。

そして、もう1人、コロナ対策で注目された首長とは異なるのですが、4月の最初の頃でした。新聞を読んでいると「最年少女性市長誕生」という見出しが目に入りました。彼女は徳島県徳島市の内藤佐和子市長、36歳0か月での就任です。その時は特に「そうなのか」くらいにしか思いませんでした。しかし、別の新聞のコラムに、経歴などがもう少し詳しく紹介されていました。彼女は、東京大学文学部在学中、20歳の時に難病の「多発性硬化症」（神経を覆う髄鞘が壊れてむき出しになる病気）を発症。弁護士になろうとして法学部に入り直した矢先のことでした。医者からストレスで悪化するため弁護士になるのはあきらめるように言われます。「治療法がない病に直面した不安や夢が遠のいた絶望で涙が止まらなかった」と言っています。しかし、悩みに悩んだあげく、彼女はそこから前を向きます。「難病だからできないという思い込みの壁を取り払うことで、新しいことにチャレンジできるようになった」と。学生時代にベンチャー企業の経営に参画するなどし、2009年に「徳島活性化コンテスト」を県と共催したことをきっかけに「まちづくり」活動に参加。『難病東大生 できないなんて、言わないで』というタイトルで本も出版します。さらに、徳島市で行財政改革、駅前再開発、教育振興の委員を務め、徳島活性化委員会の代表となります。それらが認められ市長選に立候補するように勧められたのです。市長になった現在も薬を服用しながら市と県が協調することを大切に、徳島を活性化させたいと、彼女は語ります。

注目するのは、年齢は関係なく、いかに人々のために力を尽くせるか、いわゆる「他のために」という思いを持ち、それをいかに情熱を持って行動に移せるかです。2人に共通するのは、決して順風満帆な人生を送ってきたわけではなく、普通の人よりも苦勞してきました。それでも、くじけることなく、負けることなく、人々の幸せを考え、チャレンジしたことです。

このコロナ禍、ただでさえ重い気持ちの中、政治、政治家の在り方が色々取りざたされていますが、彼らの姿も、また一筋の光明であると感じました。君たちも18歳で選挙権が与えられ、今の1年生が18歳になった時に法律的に成人となります。時には、そうした視点から自分のことを考えてみてほしいと思います。いや、その前にまずは、毎日の学校生活において、ホームルームや部活動などの中での自分の在り方についてぜひ考えてみましょう。そのことを君たちには強く望みます。

話は以上ですが、最後に一つ付け加えたいことがあります。それは、「カモンイン国学院」のボランティアに応募してくれた人たちへの感謝です。今回はこうした現状の中で急遽、君たちが参加しないことになりましたが、応募してくれたことと部活動紹介のために、頑張ってくれたことは非常に嬉しく思います。ありがとう。また、何か機会があったらよろしく願います。